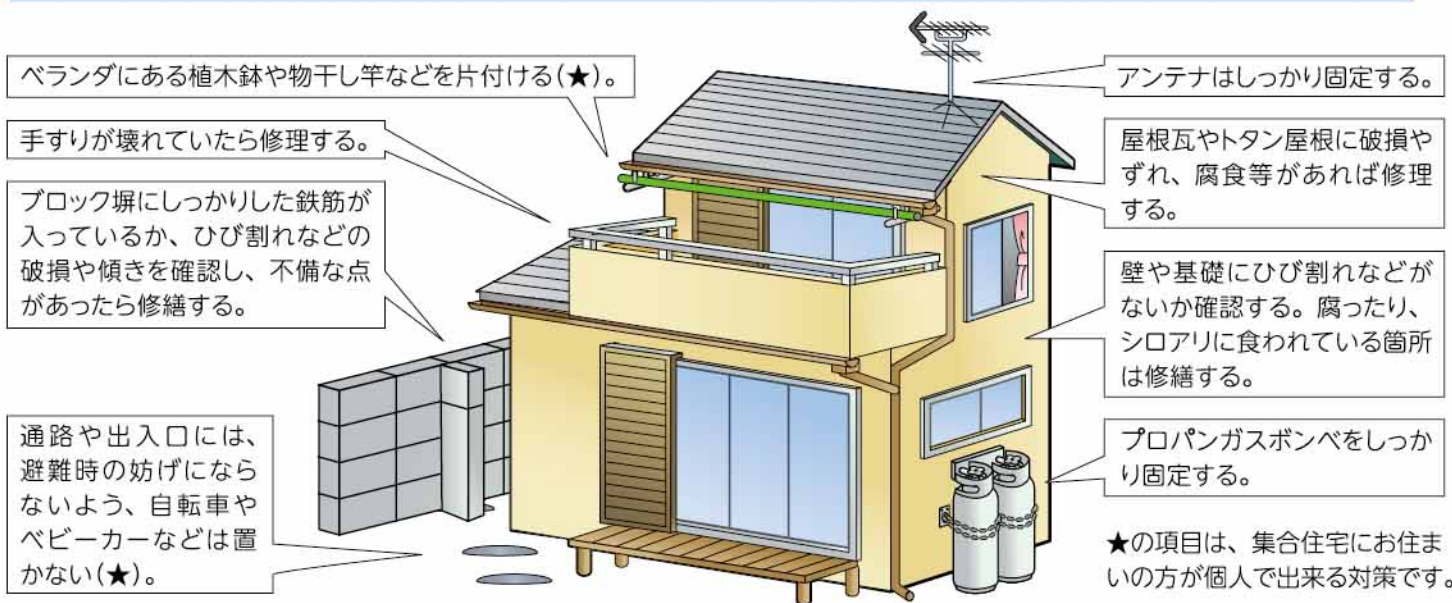


地震から身を守るため、また被災後に継続して自宅で生活するために、定期的に点検・補修をして、自宅の安全性を確保しましょう。

家屋の備え



屋内の備え

過去の震災では、家が無事でも家具の転倒等により負傷したり、転倒した家具やガラスの破片等を片付けられず、避難所での生活を余儀なくされるケースが多くあります。安全な部屋作りを今すぐに実践しましょう。

- 大きな家具は人の出入りの少ない部屋にまとめて置く。
- 重たい物は下の段に収納する。
- 玄関や廊下には物を置かない(避難時の妨げになる)。
- 高齢者や子どもの部屋や寝室に、倒れやすい家具は置かない。



松伏町では、昭和56年(1981年)以前に建築された木造住宅の無料簡易耐震診断を実施しています

住宅の耐震基準は、昭和56年に強化されましたが、阪神・淡路大震災では、それ以前に施工された建築物に大きな被害がありました。このような被害を最小限にとどめるには、住宅の耐震性を向上させることが重要です。松伏町では、昭和56年以前に建築された木造住宅の所有者等に無料簡易耐震診断を受けてもらうことによって、耐震化の必要性をご理解いただくとともに、耐震性の向上を推進しています。

【問合せ】
松伏町役場新市街地整備課開発建築担当
電話 048-991-1858・1806

※建築物の構造や建築面積によっては、診断が行えない場合があります。

家具類の安全対策

大きな地震では、家具の転倒や食器等の散乱によって、逃げ遅れたり怪我をすることがあります。怪我防止のために、自宅の家具にL型金具等を取り付け、家具の転倒を防ぎましょう。賃貸住宅では、壁への穴あけ等が難しい面があるので、つっぱり棒や粘着性マット等を使用しましょう。

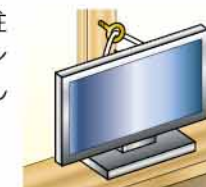
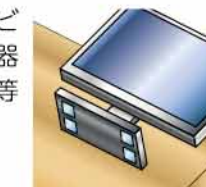
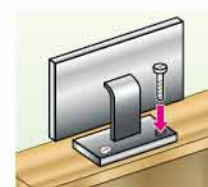
◆すぐにできる転倒防止対策

- 家具の下に滑り止めマットを敷く。
- 食器棚や本棚等では、重いものを下に、軽いものを上に収納する。
- 家具と天井の隙間を、弱粘着性のマットを挟んだダンボール箱などで詰める。天井と段ボール箱の隙間は2cm以内にする。



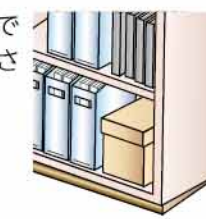
◆家具類の固定方法

- テレビ本体とテレビ台をボルト等で固定する。
- テレビ本体とテレビ台をストラップ式器具や粘着性マット等で固定する。
- テレビ本体と壁や柱をロープとヒートン(金具)などを利用して連結する。



◆タンス等の大型家具

- L型金具やベルト式器具等で家具と壁を固定する。
- ストッパー式器具で家具を壁側に傾斜させる。
- 家具と天井の間をつっぱり棒などで固定する。



◆家具類の固定方法

- 二段重ねの家具は、連結固定器具で上下を連結する(一体化)。
- 引き出しや開き戸には、飛び出し防止器具を取り付ける。
- 本棚等には、落下を防ぐ抑制テープや器具を取り付ける、すべり止めシートを敷く。



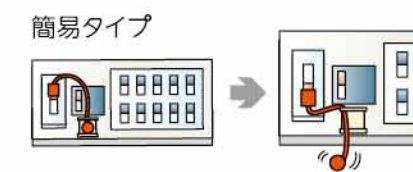
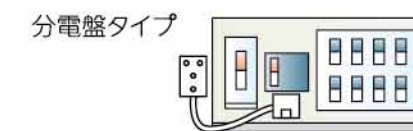
参考：総務省消防庁ホームページ「地震による家具の転倒を防ぐには」 <https://www.fdma.go.jp/publication/database/kagu/>

通電火災を防ぐ

近年の大規模な地震の際に発生した火災は、電気による出火が大きな割合を占めています。

通電火災を防ぐため、避難するときは必ず電気のブレーカーを切りましょう。感震ブレーカーは、強い揺れを感知すると自動的にブレーカーを落として電気を止める機器です。破損した電化製品の電気配線が通電時に発火して発生する「通電火災」を防ぐことができます。

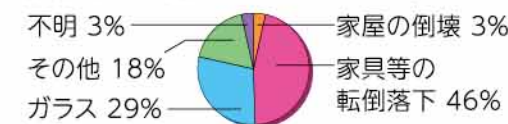
感震ブレーカーには、右記のようなブレーカーで遮断するもの他に、コンセントで遮断するものがあります。自宅の環境に応じて選択しましょう。また、感震ブレーカーを設置する際は、停電時に点灯する非常用電灯を設置する必要があります。



過去から学ぶ <阪神・淡路大震災の場合>

阪神・淡路大震災では、けがをした人の原因の約46%が家具等の転倒落下によるものでした。大地震では、大型の家具等が移動や転倒を起こしたり、窓ガラス等が割れて飛散したりします。地震によるけがを未然に防ぎ、室内の避難路を確保するため、家具類の転倒・落下防止対策等をしっかり行いましょう。

阪神・淡路大震災でけがをした人の原因



日本建築学会「阪神淡路大震災 住宅内部被害調査報告書」より